



新明倫

鍛英親
錬知愛

高鍋西中学校
学校だより
平成29年12月7日

3年生「協働」によるまちづくりについて考える

11月末から12月はじめにかけて、3年生の各クラスで、将来のまちづくりについて考える出前授業が行われました。クラス毎に1時間ずつ、高鍋町役場の増田浩史さん（政策推進課 課長補佐：昭和62年度西中卒業生）を講師に迎えて、高鍋町の現状や課題、そのためになすべきことなどについて、グループに分かれて考え、発表し合いました。

はじめに「協働」ということの意味について考えた後に、2060年（今から43年後）には、推定で、

- ・町の人口（現在20,635人）が12,935人になること、
- ・14歳以下の子どもが10人に1人

65歳以上の高齢者が10人に4人になること、などについて説明を聞きました。

そして「人口減少」と「少子高齢化」が同時に進行しているという大きな課題を解決するためには、様々な立場の人たちが同じ目的を達成するために協力をしながら、それぞれが持っている力を発揮すること、すなわち「協働」がとても大切であることについて理解しました。

最後に、黒木 敏之 町長からの次のようなメッセージをいただきました。

みなさんは、将来の高鍋町を支える まちの大切な「宝」です。
 これからも、高鍋西中学校で学んだ「協働」の精神を忘れずに、将来に向かって大きく羽ばたき、ぜひ、自分の夢を実現させてください。
 そして、まちを支える一人として成長してください。



「私の大好きな高鍋の風景」町景観 絵画・写真コンクール

先日「第6回高鍋町景観 絵画コンクール・写真コンテスト」（町主催）が行われ、今年も一般を含めて多くの方々が応募されました。高鍋西中からも絵画・写真の両部門に計191人（1年生：60人、2年生：59人、3年生：82人）が出品しました。

その中から、絵画部門の銀賞に加藤 実莉 さん（1年）が、写真部門の銀賞に宮越 優衣 さん（1年生）が選ばれ、10月23日（月）に高鍋町役場で表彰式が行われました。

この取組は、高鍋町内の町並みや風景を絵に描いたり、写真に撮ることを通して、身近な町の景観に関心を高めてもらおうことを趣旨として毎年行われているものです。

西中では「ふるさと高鍋を愛し 自ら学んで未来を拓く 心豊かでたくましい 高鍋の人づくり」を学校経営ビジョンに掲げて教育活動を行っています。これからも身近な地域に関心を持ち、愛し、貢献できる生徒の育成を推進していきます。



ひまわり畑(加藤 実莉 さん)



舞鶴城跡壕(宮越 優衣 さん)

「凍えた両手に息を吹きかけて」寒い中も自分の力で登校

12月になり、暗い日にはライトをつけて早朝の厳しい寒さの中を頑張って自転車をこいでいる生徒、白い息を吐きながらも元気に歩いて登校して来る生徒を毎日見えています。

そんな寒さの厳しい日は、松山千春の「大空と大地の中で」という歌の右のような歌詞を思い出します。雨の日や風の日にも頑張って自分の力で登校している生徒をほめたくになります。

反対に毎日のように、校門の前まで車で送ってもらう生徒もいます。（特別な事情がある場合は別です。）高校生になっても毎日続くのでしょうか？ 将来の自立をととても心配します。

送ってこられる保護者に、ぜひ考えていただきたいと思う毎朝です。

歩き出そう 明日の日に 振り返るにはまだ若い

♪ 凍えた両手に 息を吹きかけてえ
しばれた体を 暖めてえ

生きることが辛いとか 苦しいだとか言う前に
野に育つ花ならば力の限り生きてやれ ♪